

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑮

東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第18回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 日 時 | 令和7年3月7日（金） 17時00分から18時30分 |
| 2 | 会 場 | 市川市立東国分中学校 多目的教室 |
| 3 | 委 員 | ・大学教授（委員長）各学校（東国分中・曾谷小・稲越小）の学校運営協議会代表（17名） |
| 4 | 内 容 | ・報告事項：1. プロジェクト会議について
2. 教職員の取組について
3. 児童生徒の取組について
4. 検討委員会の今後の方向性について |

※教育委員会の説明事項の概要は、「会議資料」をホームページに掲載していますので、詳しくは、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu20/1111000002.html>



報告

（1）プロジェクト会議について

①【第28回プロジェクト会議（令和6年9月19日（木）主な会議内容）】

・ブロック定例研、オンライン「給食」交流会等について検討したことを報告しました。

②【第29回プロジェクト会議（令和7年2月6日（木）主な会議内容）】

・今年度を実施した取組の振り返り、来年度に実施する取組等について検討したことを報告しました。

（2）教職員の取組について

①「小学校同士の教職員研修会」について

7月24日（水）に、日本ペップトーク普及協会認定講師による、曾谷小学校と稲越小学校の教職員を対象とした、ペップトーク※研修会を実施したことを報告しました。

※ペップトークとは、肯定的な言葉を使うことを前提とし、短く、分かりやすく語ることで、人の魂を揺さぶりその気にさせるトークのこと。

②「合同教職員研修会」について

8月30日（金）に、東国分爽風学園として「9年間を見通した、育てたい（あるべき）児童生徒の姿」について、教職員の願いや思いの共有を図るために実施したことを報告しました。

3校の教職員の関係を深める目的でグループワークを行った後に、専門部会に分かれて小、中学校の情報交換や小中連携の実施方法等の検討を行いました。

③「ブロック定例研」について

11月6日（水）に、東国分爽風学園として教職員のさらなる連携を深めることを目的に、8月に引き続き、3校合同の教職員研修会を実施したことを報告しました。

研修テーマを「東国分中学校ブロックで学ぼう!!明日からの授業で使えるタブレット活用術」とし、東国分中学校の教諭による公開授業を行った後に、教科部会に分かれてタブレットの有効な使い方等について話し合いを行いました。

（３）児童生徒の取組について

①東国分爽風学園の「代表委員会と生徒会の交流活動」について

７月１１日（木）に、曾谷小学校と稲越小学校の代表委員会の児童と、東国分中学校の生徒会の生徒が「オンライン」を利用し、今後３校で実施したい交流活動について意見交換会を行ったことを報告しました。

意見交換会で出された提案内容について、合同職員研修会の児童生徒会部会で協議の上、オンライン「給食」交流会を実施することとしました。

②オンライン「給食」交流会について

１０月２３日（水）と２４日（木）に、東国分爽風学園の児童生徒と交流を深める目的で、オンライン「給食」交流会を行ったことを報告しました。

東国分中学校の生徒が司会を務め、各小学校の給食の献立等を紹介しました。

③「ブルーリボン運動」について

１２月４日（水）に曾谷小学校へ、１２月１３日（金）に稲越小学校へ、東国分中学校の生徒会の生徒が出向き、代表委員会の児童に「ブルーリボン運動」の活動の目的について説明を行いました。

今年度の新たな取組として、生徒会の生徒が代表委員会の児童にブルーリボンの作り方を教える活動を行い、作り方を教えてもらった代表委員会の児童が各小学校の児童分を作成し、「ブルーリボン運動」の期間に配付したことなどについて報告しました。

④東国分爽風学園「中学校見学会」について

２月３日（月）に国分小学校と中国分小学校、２月７日（金）に曾谷小学校と稲越小学校の６年生を対象とした、東国分中学校での授業及び部活動の様子を見学する機会を設けることで、中学校生活に対してイメージを持ちやすくすることを目的に実施したことを報告しました。

授業及び部活動見学の他に、動画による部活動紹介や、東国分中学校の生活・学習面、部活動等の内容が書かれたパンフレットを東国分中学校の生徒が作成し、６年生に紹介しました。

（４）東国分中学校ブロック義務教育学校の設置に関する検討委員会の今後の方向性について

本検討委員会の活動は、東国分爽風学園の小中一貫教育の取組の成果と課題を取りまとめたことにより、今年度をもってその役割に区切りを迎えたものと考え、学校運営協議会の専門部会として立ち上げたこの検討委員会を、学校運営協議会に戻すことについて報告しました。

また、従来行っている東国分爽風学園の取組等の報告については、合同学校運営協議会にて各委員の皆様と共有し、必要に応じて、新たに新校舎等に関する検討委員会を立ち上げるについて報告しました。

【委員からの意見等】（○：委員長及び委員 ●：事務局）

○令和４年度から令和６年度までの３年間は、児童生徒及び教職員の小中連携した取組など、活発な交流ができていていると思っています。クリーンセンターや斎場の建設が予定されている中、施設一体型校舎を作ることが可能か否かは疑問ではあるが、令和７年度には東国分爽風学園の方向性を示してほしいと思います。

○児童生徒、保護者、地域の方々に小中一貫型小学校・中学校の通称名を募集し、協議したころを懐かしく思います。今後も、東国分爽風学園が子どもたちの力でいい形で進んでいってくれると良いと思います。

○小学校から中学校へスムーズに進学できるよう、３校の先生方が様々な取組を考えてくださっていることを知ることができて良かったと思います。これからも無理のない形で進めていただければ、保護者としても嬉しく思います。

○東国分爽風学園の通称名を協議したころから検討委員会に参加していますが、３校の先生方がこれまでに、色々なことを考えて小中一貫教育の取組を実施して下さっていることに、保護者として感謝の気持ちでいっぱいです。

令和7年度は、オンライン交流から一歩進んだ形で児童生徒が対面で交流することを目標に持たれているとのことなので、実現する日が楽しみです。東国分爽風学園の3校が良い学校だと知っていただくことが目標なので、そのために今後も協力していきたいと思います。

○小中の児童生徒の交流の機会が増えたことで、小学生が中学校へ進学する際の不安を解消できていることが、一番に良いことだと思います。これからも、児童生徒から提案された小中連携の取組を実現できるよう、地域の方の力もお借りして広く活動ができると良いと思います。

○東国分爽風学園が将来的に施設一体型の義務教育学校になるか先行きが不透明な中、多くの教職員が不安に思っています。しかし、小中一貫型小学校・中学校として学園の教育目標である「笑顔をつなぐ 未来へつなぐ 東国分爽風学園の学び」の実現に向けて、東国分爽風学園の子どもたちがより良い環境の中で育つことができるようにしていきたいと思っています。これからも3校協力のもと、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、東国分爽風学園の充実に向けて進めていきたいと思っています。

○これまで3校の連携した取組を進めてきましたが、令和7年度は、曾谷小学校と稲越小学校の小小連携の取組も充実させたいと考えています。

○東国分爽風学園の小中一貫教育の取組を通して、教職員と児童生徒の繋がりが強くなったと思います。また、東国分爽風学園に対する想いが徐々に増していることを日々感じています。その裏には、児童生徒及び教職員の取組が定着したことが大きな成果として挙げられると思います。東国分爽風学園という種が、確実に芽を出して成長しているのは間違いないことだと思います。次年度以降も小中連携の取組を強めていながら、東国分中学校ブロックの児童生徒を育てていきたいと思っています。

○このまま取組を続けて良いのか、本当に施設一体型になるのか等、教職員も不安を抱いていた1年でした。東国分爽風学園の小中一貫教育は、子どもたちにとって良い取組であることを確信しています。これまでの取組を継続して実施していきたいと思っています。

○小中一貫教育は子どもたちにとって良いことしかないと思います。東国分爽風学園は、塩浜学園とは異なる形でスタートしました。東国分爽風学園の小中一貫教育が、市川市の他の中学校ブロックのモデルケースとして、市全体に広がっていくと良いと思います。

○これまで委員の皆さんと議論してきたのに残念に思います。検討委員会がなくなるということは、今後の検討を合同学校運営協議会で行うということですか。

●東国分爽風学園の取組の報告は、合同学校運営協議会で報告していきたいと考えております。

○検討委員会は終了するというのですか。

●はい。今後は、必要に応じて、新校舎等に関する検討委員会を立ち上げたいと考えております。

○塩浜学園ではふるさと防災科に取組んでいます。東国分爽風学園でも、ふるさと探究科を前面に押し出して取組んでほしいと思います。

○東国分爽風学園の小中一貫教育を理解していく中で、施設一体型の義務教育学校になるのが理想だと思います。施設一体型の義務教育学校になった時に、施設分離型での小中一貫教育の経験が生かされるのだと思います。東国分爽風学園の今後については、地域活動にも大きな影響を与えるので、方向性が早く決まれば良いと思っています。

○東国分爽風学園は、小中一貫型小学校・中学校の魅力ある取組がうまく花開いていると思います。東国分爽風学園の取組が進んでいるので、みんなで協力してやっていきたいと思っています。